発行：2025. 7

■昭和薬科大学附属高等学校・中学校■

yakka 瓦版

やっか かわらばん

本校入試に関するお問い合せ
〒901-2112　浦添市沢岻450
TEL.098－870－1852
入 試 班

＊この資料は『学校案内』の補助資料です

昭和薬科の「合格力」

国公立大医学部医学科 合格者数ランキング

順位	学校名（都道府県）	卒業生数	合格者数
1	東海（愛知）	379	104
2	東大寺学園（奈良）	200	66
3	開成（東京）	396	64
4	洛南（京都）	401	60
5	滝（愛知）	367	59
	甲陽学院（兵庫）	199	59
7	灘（兵庫）	214	56
	久留米大附設（福岡）	204	56
9	西大和学園（奈良）	362	53
10	仙台第二（宮城）	315	48
11	愛光（愛媛）	250	46
12	青雲（長崎）	198	44
13	**昭和薬科大附（沖縄）**	**180**	**43※**
	※掲載時のもので現在の合格者は44名です。		
14	大阪星光学院（大阪）	170	42
	四天王寺（大阪）	473	42
16	渋谷教育学園幕張（千葉）	359	41
17	札幌南（北海道）	302	39
	桜蔭（東京）	223	39
	ラ・サール（鹿児島）	214	39
20	豊島岡女子学園（東京）	249	37
21	立命館慶祥（北海道）	301	36
	熊本（熊本）	403	36
23	岐阜（岐阜）	350	35
	北野（大阪）	312	35
25	北嶺（北海道）	117	34
	海城（東京）	306	34
	洛星（京都）	210	34
	智辯学園和歌山（和歌山）	259	34

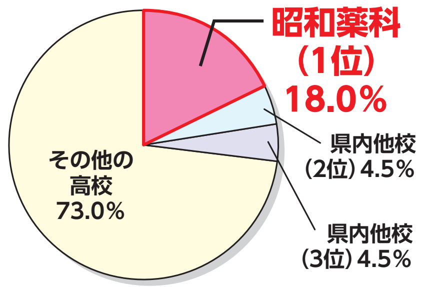
（サンデー毎日2025年４月27日特別号より）

国公立大医学部医学科合格者数ランキング
全国13位（九州３位）

国公立大医学部医学科現役合格者占有率※ランキング
全国９位（九州２位）

※占有率とは、卒業生に対する現役合格者の割合のことです。

琉大医学科占有率



[募集人員111名中]

県内1位 国公立大学医学科44名合格！
琉球大学医学部医学科20名（現役12名）合格！
京大１名（医医）、東北大１名（医医）、阪大１名（医医）、九大３名（医医）、神戸大２名（医医）

県内1位 難関国立10大学完全制覇！28名合格！

県内1位 大学入試共通テスト平均746.6点
今年も県内トップ！（全国平均※639.6点）

　本校は、国公立大学医学部医学科への進学実績において全国屈指の実力を誇ります。サンデー毎日による医学部医学科ランキングでは、毎年のように上位に名を連ねており、「医学部に強い進学校」として全国的な評価を得ています。特に、県内最難関である琉球大学医学部医学科への合格者数は、全国一の実績を継続中です。
　また、東京大学や京都大学をはじめとする難関国立大学への合格実績も高く、多くの生徒が第一志望大学への合格を実現しています。大学入試の最初の関門である大学入学共通テストにおいても、毎年県内トップの平均点を記録しており、学力の高さが証明されています。

※全国平均はベネッセ・駿台データネット調べ。

国公立大学

	国公立大学	合格者	（現役）
国立難関10大学	東京大学	3	（ 3）
	京都大学	3	（ 2）
	北海道大学	2	（ 1）
	東北大学	1	（ 1）
	一橋大学	1	（ 1）
	東京科学大学	1	（ ）
	名古屋大学	1	（ 1）
	大阪大学	3	（ 1）
	神戸大学	8	（ 6）
	九州大学	5	（ 3）
	計	28	（ 19）

省庁大学校

省庁大学校	合格者	（現役）
防衛医科大学校	4	（ 1）
防衛大学校	1	（ ）

私立大学

	私立大学	合格者	（現役）
私立大学	昭和薬科大学	5	（ 4）
	慶應義塾大学	2	（ 1）
	早稲田大学	9	（ 6）
	上智大学	13	（ 7）
	東京理科大学	6	（ 1）
	学習院大学	9	（ 7）
	明治大学	10	（ 6）
	青山学院大学	8	（ 3）
	立教大学	4	（ 2）
	中央大学	12	（ 6）
	法政大学	11	（ 8）
	同志社大学	2	（ 2）
	立命館大学	21	（ 8）
	関西大学	10	（ 9）
	関西学院大学	6	（ 5）
	その他の私立大学	126	（ 76）
	計	254	（151）

医学科への合格

	医学科への合格	合格者	（現役）
国公立大医学科	京都大学	1	（ 1）
	東北大学	1	（ 1）
	大阪大学	1	（ ）
	神戸大学	2	（ 1）
	九州大学	3	（ 2）
	山形大学	1	（ 1）
	筑波大学	3	（ 3）
	新潟大学	1	（ ）
	岡山大学	1	（ ）
	香川大学	1	（ 1）
	長崎大学	2	（ 1）
	熊本大学	1	（ ）
	鹿児島大学	1	（ ）
	琉球大学	20	（ 12）
	その他の国立大学	5	（ ）
	計	44	（ 23）
※	防衛医科大学校	3	（ 1）

※令和７年４月18日時点

Interview

活躍する卒業生

医師として　ボクシング連盟会長として

仲間 達也
Tatsuya Nakama
循環器内科医師
（東京ベイ・浦安市川医療センター循環器内科　部長）
公益社団法人　日本ボクシング連盟　会長

略歴
1999年　昭和薬科大学附属高校卒業
2005年　宮崎大学医学部医学科卒業、医師免許取得
2007年　初期研修修了
（宮崎大学医学部附属病院　初期研修プログラム）
2007－2018年
宮崎市郡医師会病院　心臓病センター循環器内科
2018－現在
東京ベイ・浦安市川医療センター　循環器内科

■ 私のお仕事

私は現在、千葉県浦安市にある東京ベイ・浦安市川医療センターにて、循環器内科医師として働いています。循環器内科というのは、人間の血液の循環（心臓や血管）を管理する診療科です。私はその中でも特に、心臓や全身の血管の「カテーテル治療」が専門です。心臓の血管が詰まって心臓の組織が壊死していく、非常に致死率の高い「心筋梗塞」や、下肢の動脈が閉塞することにより歩けなくなったり、足が壊死したりする「末梢動脈疾患」という疾患などを日々治療しています。カテーテル治療というのは、狭窄・閉塞した血管に針金（ガイドワイヤー）を通過させ、風船で膨らませて狭窄や閉塞を拡張させる治療です。風船で広げた後に、ステントと呼ばれる金属の網を血管の中に留置することもあります。この20年程度で、カテーテル治療の技術や道具が飛躍的に進歩したために、多くの患者さんが（外科手術と比較して）低侵襲な治療の恩恵を受けることができるようになりました。超高齢化社会を迎えている日本において、治療の侵襲度が低く、入院期間が短いカテーテル治療が果たす役割は大きく、昨今非常にニーズの高い治療となっています。疾患の性質上、緊急の治療も多く、夜間に呼び出されたりすることもあります。しかしながら、心臓が止まっても心臓マッサージをしながら、人工心肺の様な機械の補助下で諦めずに治療を続けて、最終的に患者さんが元気になって歩いて退院するような、まるで医療ドラマの様な感動的な、人の人生を変える瞬間に立ち会えることも多く、非常にやりがいのある仕事です。

また、循環器内科医師として過ごす以外の時間を使って、公益社団法人日本ボクシング連盟という、アマチュアボクシングを国内で統括する団体の会長を務めています。国内トップ選手を育てる強化事業と、競技を啓発するための普及、そして健全な組織運営が主な仕事で、団体の中で様々な役職の方々と上記のためのプランを考えたり、日本オリンピック委員会の様な上部団体と話し合いをしたりしています。時には国際大会の視察や、国際会議に出席することもあります。2024年に開催されたパリオリンピックは現地へ赴き、試合を観戦すると共に各国の要人と面会して日本のプレゼンスを高めるようなアピールをしてきました。

カテーテル手術中（写真中央が仲間です）

■ 医師を目指したきっかけ・ボクシング連盟会長に就任したきっかけ

父は、医学部を中退後に建設会社の経営をしていましたが、医学について色々と話してくれることも多く、小さな頃から、漠然と医師という仕事に対しての憧れを持つようになっていました。昭和薬科大学附属中学入学後にボクシングを始め、競技に没頭（1999年九州総体優勝、インターハイ出場）したこともあり、ボクシングの推薦で大学に行くこと等も考えましたが、最終的に医学の道に進み、スポーツ医科学を学んでボクシングの競技に関わりたいと考え、医学部受験を決意しました。幸運なことに現役で宮崎大学医学部（当時は宮崎医科大学）に合格。2005年に卒業、医師免許取得して医師のキャリアをスタートさせました。在学中までは高校時代に考えていた通り、スポーツ医科学を専門にする様なキャリアを考えていましたが、研修医時代に見た、心臓のカテーテル治療の魅力に取り憑かれ循環器内科医（特に、カテーテル治療の専門医）を目指し、現在に至ります。また、医師としてのキャリアを積みながら、宮崎において、アマチュアボクシングの試合のリングドクターを10年以上勤めてきました。2018年に東京に移り住んだ際に、日本ボクシング連盟の運営に理事として参加することを依頼され、理事就任。専務理事を４年勤めたのち2024年６月から会長に就任しました。

アジアボクシング連盟　臨時総会にて
（左が仲間、中央は世界ボクシング連盟会長）

■ 仕事のやりがい

医師として：前述の様に、夜間緊急の呼び出しも少なくはなく、体力的にはきつい仕事ですが、患者さん（や家族）の人生が変わる瞬間に立ち会える職業として、非常にやりがいを感じています。循環器疾患は、心臓が止まっても諦めずに治療を行うことで救命・社会復帰できる場合も少なくなく、自分たちの頑張りで命を救うことができた、と感じる事も多いため、非常にやりがいのある職業・診療科です。

ボクシング連盟会長として：高校時代に自分が青春を捧げた競技スポーツに「支える側」として参画し、当時の自分の様な、多くの夢を持った選手たちの活躍の場を作る、そしてそれを見届けることはとても嬉しいものです。また、国際大会や会議では、多くの国の人たちとコミュニケーションをすることができ、多様性を感じることができる素晴らしい機会だと感じています。

■ 昭和薬科大学附属中学・高校での生活を振り返って

とても楽しい６年間でした。今振り返ると、長いようであっという間の６年間でした。そして、その６年間の経験と思い出は、自分の人生の礎となっています。中高一貫の、自由な校風だからこそ、ボクシングという特殊な競技に集中して取り組みながら勉学に励むことができました。ボクシング部がなかったので、大会の引率は、親しい先生たちに声をかけて、県内外の大会や合宿に一緒に行って頂きました。ボクシング以外でも吹奏楽部に所属させていただき、多くの仲間たちと楽しい時間を過ごしました。今振り返ってもとても良い思い出です。６年間というゆとりのある時間の中で、素晴らしい仲間たち、そして指導者たちに恵まれ、幸せな中学・高校生活だったと思います。

■ 中学受験生に応援メッセージ

中学・高校時代の６年間というのは、人生においては短い時間ではありますが、自分自身がどのような考え方、生き方をしていくのか、その根幹になるようなものを築いていく大事な時間です。目の前の受験勉強という目標を突破するための毎日の努力は大変だと思いますが、そこを乗り越えることで、自分が成長するために最適な環境で６年間を過ごすことができます。悔いなく受験勉強を終え、試験で全力を尽くし、そして最後に素晴らしい結果が訪れて、昭和薬科大学附属中学・高校で６年間の青春を過ごすことができることを心より願っております。

中学入試Ｑ＆Ａ

※試験日程などについては学校案内の『入学試験募集要項』をご覧ください。

Q1 受験について教えて下さい。

A　筆記試験のみです。推薦試験はありません。また、生徒や保護者の面接、小学校から提出してもらう書類などもありません。

ただし、本校は附属高校に連結した完全中高一貫教育校であり、受験資格を「入学後は昭和薬科大学附属高等学校へ進学し、将来大学進学を希望する者」としています。“中学だけは本校に在学、高校は他校へ”という考えは、本校の趣旨に合っていません。中高を通して、同じ目標を持った仲間と、本校のサポート体制の整った学習環境で頑張っていきましょう。

Q2 薬科の学習面での特色は何ですか？

A　中学校の段階から大学受験を見据えて、「ムリ・ムダ」をなくした効率的な指導を行っています。高校３年時には余裕をもって受験に臨めるような演習中心の授業を行っており、それが高い合格実績につながっています。全ての教師において中学と高校の区別がなく、６年間をひとまとまりとした指導が実践されています。

Q3 授業についていけるか心配です。

A　受験に合格出来たということは、「まじめに努力すれば薬科の授業についていく力がある」ことを意味しています。授業をしっかり受け、家庭学習を習慣化すれば何も心配ありません。知的好奇心を揺さぶる授業が展開され、同じ目標を持った仲間がいるから、きっと頑張れます。

Q4 学級編成や講座について教えて下さい。

A　中学校から高校１年までは能力別学級編成（習熟度別編成）は行わず、高校２・３年生では一部教科でレベル別や志望校別にクラス編成をしています。課外講座は、学期中の早朝や放課後、長期休暇中に実施しています。内容は生徒の理解度に合わせた「基礎強化講座」や「希望制講座」などがあります。

Q5 部活動は自由参加ですか？

A　中学入学後は自由に部活動へ参加することができます。活動は放課後の時間が中心です。自分が興味関心を持ち継続的に参加できる部活を選び、楽しんでください。ただし、勉強との両立がとても重要です。無理のない活動を心掛けてください。

Q6 昼食について教えて下さい。

A　中学生は給食があります。また、高校生はキッチンカーなどによる昼食販売を利用でき、中学生も給食後には利用可能です。さらに、飲み物やアイスクリームなどの自動販売機も設置しております。